

子育て・子育て支援の今：親子のしあわせをつくる

- 企画・司会： 眞榮城和美（白百合女子大学准教授）
話題提供1： やたみほ（白百合女子大学准教授）
話題提供2： 櫻井拓見（せんがわ劇場 Drama Education Laboratory）
話題提供3： 齋藤れいな（子ども大学たま副理事）
指定討論： 宮下孝広（白百合女子大学教授）

【企画主旨】

本シンポジウムは、日頃から子どもたちの学びと育ちに関心を持ち、それぞれの専門性を活かした活動を展開している登壇者を迎え、親子のしあわせをつくることを視野に入れた社会的取り組みの現状と課題について検討することを目的としている。

シンポジウムとしては珍しい試みとして、同日同時刻に大会校で開催している子育て支援イベント（りすぶらん・あんふあん/せんがわ劇場）の様子についてライブでご覧いただきながら「親子のしあわせ」をつくる子育て・子育て支援の今後についてディスカッションしていく予定である。

*市民公開シンポジウム終了後（午後1時30分～4時）、登壇者の1人であるやたみほ氏主催の親子でぱらぱらマンガづくりコーナーも用意しています。

高等教育機関による「知」の拠点としての実践例

「白百合女子大学エデュテイメント大学」

—クレイアニメをつくろう—

やたみほ

（白百合女子大学人間総合学部）

エデュテイメントとは、エデュケーションとエンターテイメントからなる造語であり、最近、企業とアミューズメントパーク連携型エンターテイメントとして注目されている。話題提供者が所属している白百合女子大学では、2017年度から『エデュテイメント（エデュケーション+エンターテイメント）大学』を実施し、各プログラム担当者の専門性を活かし、地域の子育て・子育て支援など、社会的ニーズに応える活動を実践している。

話題提供者は20年前から編み物で作るアニメーション「編みメーション©」を制作し、長年に渡り、映像を扱う部署で主に視覚玩具や映像を使ったワークショップに携わってきている。そのノウハウについては、エデュテイメント大学のみならず、小学校での授業、地域交流の場においても実践している。さらに、日本子ども学会等、学術会議にて「視覚玩具」と呼ばれる目の錯覚を利用したアニメづくりを中心としたワークショップの内容を紹介し、子育て支援や地域活動に「アニメーション作り」をどのように活かすことができるのかについて検討してきた。

今回は、子ども学会主催校である白百合女子大学にて例年行っているエデュテイメント大学「クレイアニメをつくろう」の活動風景を生中継。市民公開講座の会場からの問いかけに回答する形式で、エデュテイメント大学の魅力を会場のみならずお届けする。

演劇ワークショップの現場から

—乳幼児期から小学生までの子どもとその保護者を対象として—

櫻井 拓見

(調布市せんがわ劇場演劇ディレクター、せんがわ劇場 DEL)

「名前を教えてください。声に出さなくてもいいよ、では、尻文字で！」

笑い声があがり、小学二年生の子供が勇んで、尻を使って空間に文字を書く。これは、2017年に白百合女子大学エデュテイメント大学内の「表現ワークショップ」で行ったアクティビティのひとつで、空間全体を大きなキャンパスに見立て、そこに身体の一部を使って文字を書いていくというもの。実際に筆記されるわけではないので、そこには動く身体と軌道だけが残し、まるでダンスを踊っているかのように見えることもある。「人前で気おくれなく話せるように」という題目で集まった小学生とその保護者対象のこのワークショップでは、そもそも「話さなくてもいい」という選択肢の意識付けとして前述のようなアクティビティで身体を緩ませた。

人と人が密接なコミュニケーションを取り合いながら創作物を形づくっていく演劇には、自己と他者を再発見し、それをコミュニケーションの新たな手掛かりとして、関係性をさらに深めていくといった循環を生み出すための契機になり得る要素がたくさん備わっており、それをプログラム化したワークショップは、様々な現場で応用され、実践されている。

今回は、話題提供者がこれまでに実施してきたワークショップの中から、主に小学生までの子どもや親子を対象としたものをピックアップしながら、DELというアーティストの専門職能集団を抱える調布市せんがわ劇場の取り組みを紹介する。

小学生に大学の授業を

—大学の教室で大学の先生から知を学ぶ—

齋藤れいな

(特定非営利活動法人 子ども大学たま 副理事長)

「子どもたちが夢や未来、知的好奇心を広げ、地域から世界へと羽ばたける」ことを目指して、NPO法人「子ども大学たま」は2021年に設立された。

「子ども大学」のルーツはドイツにある。2002年にドイツのチュービンゲン大学から始まりヨーロッパに広がった。日本では2009年に初めて川越に誕生し、現在は全国に広がっている。

「子ども大学たま」は東京都多摩地区を拠点に、白百合女子大学の協力のもと、大学の教室で年5回の授業を提供している。対象は小学校4～6年生であり、大学の教員や専門家、地域の市民など、各分野のプロフェッショナルが授業を行っている。スタッフは全員がボランティアで活動している。

子どもたちが「本物の知」に触れ、本気で「なぜ」を追求する新しい学びの場を目指しており、親子参加も可能にしている。授業で学んだ内容について、もっと深く知りたい！プロの先生の話に触れて将来も先生のようにになりたい！

新たな発見や感動を体験できると評価をいただいている。

今回は「子ども大学たま」の昨年の授業の様子を動画でお届けする予定。子どもたちが授業のなかで真剣に取り組んで楽しんでいる姿を応援していただきたい。